

令和8年度 第2回政策推進会議報告

日 時 5月8日 9時30分～11時00分

場 所 WEB 会議

出席者 17人

1 令和8年度重点課題事項の公表について

(市長)

今回、重点課題を各局長に定めて頂いたが、各局長の責任において進捗管理をしていただき、年度末には一定の進捗が図れるよう、ご尽力をいただきたい。また、年度途中において、特に国の政策の動きなどによって、重点課題事項としては想定していなかったようなことが発生したとしても、重点課題事項に囚われすぎずに、柔軟な発想で、その時々を経済、社会状況を踏まえて対応していただきたい。そのような場合に備えて対応できるようにあらかじめ準備をお願いしたい。特にハード系の事業については毎年度の事業サイクルに拘る必要はなく、事業の前倒しも含めて検討頂きたい。

最後となるが、市民目線では、市役所の各部署の所掌は便宜上の区分にすぎない。我々はそれぞれの所掌に基づいて仕事をしているが、一方で、幹部職員は縦割り意識が強まりすぎないように注意し、この政策推進会議で横の連携を強化してほしい。私も含めて、率直な意見交換によって問題意識を共有し、各部署が連携して一つの課題に向き合える組織文化を維持していくことが大事だと思う。一緒に問題を解決しようという姿勢でこの1年仕事を進めていただきたい。

危機管理安全局長から順に資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(塚本副市長)

皆様に2点お願いしたい。

まず1点目は、重点課題事項に限らず、各局が地域に入り込んで施策や事業を進める際は、ぜひ各地域課を頼っていただきたい。地域課においても、各局から信頼される存在を目指していただきたいと考えているので、横の連携を意識して取り組んでいただければと思う。

2点目は、重点課題事項に大きな変更が生じた場合についてであり、この場合は、市民や事業者に大きな影響を及ぼすことや、市議会での議論の対象となる可能性がある。また、冒頭に市長からも発言があったが、年度途中で国の政策変更などにより新たな施策が必要となる場合も考えられる。その際には、速やかに所管の副市長に協議を行っていただきたい。

(吹野副市長)

今年は市政110周年を迎える年であり、松本市長の4年目にあたる重要な年でもある。尼崎市は阪神淡路大震災、さらには長く続いた財政難、あるいはバブルの時代には税収が上がり、財政的に余裕がある時期もあったが、私の感覚では、現在の尼崎市が最も前向きで、市民の皆様からも評価されている時期ではないかと感じている。それだけでなく、対外的にもマスコミの取り扱いを含めて、尼崎市が非常に高く評価されつつあるという実感がある。

この次のステージでは、尼崎市の取り組みがより明確に可視化される年にしなければならないと考えている。そのためには、これまで遅れていた部分をキャッチアップすることが必要で、それと同時に、さらに前向きな投資や施策を進めていくことが重要だ。この「投資」とは単に財政的な投入を意味するのではなく、市民一人ひとりが豊かさを感じられるような施策を展開することを指す。市民の皆様が尼崎市に住んでいることを誇りに思い、シビックプライドを育んでいただけるような取組を進めることが、他地域からの評価を得るためにも非常に重要だと考えている。

(市長)

市長として尼崎市政のビジョンをしっかりと語れるように努力をしていきたい。その中で最も大事なものは、経済成長、ひいては市民の生活であると考えている。つまり、市民の生活を守るという視点であり、できるだけ多くの市民の方がしっかりと働き、生活していける状況を守っていくことが重要である。そのためには、しっかりと成長という視点を持って、日々仕事をしていくことが必要だと思っている。

もちろん、目の前にいる一人ひとりの生活を大切にすることは言うまでもないが、将来にわたって持続的な財政運営や生活環境をつくっていくことも大きなポイントである。継続的に働きたい、住みたい、と思う人が尼崎に来て、ここで生活を営み、また働く環境が生まれていく。そうした好循環を地域ごとにつくっていくことが肝心で、そこを最も大切にしながら仕事を進め、尼崎で生活することに誇りが持てるような地域に育てていきたいと思っている。

そして、政策、さらに言えば施策レベルで、私として大事にしたいのは、市民に胸を張って説明できるかどうかということである。私は政治家として、さまざまな方に会い、多様な声を聞く立場にあり、そうした働きかけの中で、当然、いろいろな意思決定がなされることになる。これはある意味で避けられないことであるが、最終的には、市民全員の前で説明したときに、胸を張って説明できるかどうか大事だと考えている。そのためには、政策や施策に物語性があることも大事で、あわせて、根拠やデータをしっかりと重視することも必要となる。そうしたものに基づいて、だからこそ今この政策を打つのだということを説明できるように、自分自身も思考停止に陥らないよう努力していきたい。ただ、根拠がデータだけになってしまうと、市民の実感と離れてしまう部分もあるかもしれない。したがって、私自身、一人の人間として対話を大事にしながら、できるだけ市民感覚を持ちつつ、今申し上げたような政策の考え方で仕事をしていきたいと思っている。

2 その他

○地域協働局長から市制 110 周年記念事業 令和 8 年度 10 万人わがまちクリーン運動の実施について説明。

(吹野副市長)

職員の職員参加人数、1,000 人という目標ということであるが、例年どれぐらい参加していたのか。

(地域協働局長)

コロナが明けて令和 4 年度から実施しており、令和 4 年度は 953 人、令和 5 年度 860 人、令和 6 年度 919 人、昨年度 831 人という形になっており、若干減少傾向のため、改めてまた協力お願いしたいと思っている。

(吹野副市長)

市民の方に対して協力依頼するのに、職員が減少傾向であるということは非常に残念な結果であるため、110 周年の記念ということもあり、改めて職員のご参加の方をお願いしたい。

○保健局長から歯と口の健康フェスタ 2026 について説明。

○経済環境局長から特定外来生物クビアカツヤカミキリ講習会の開催について説明。

以 上